

## 米同時テロ 意外な場所で思わぬ余波、

# 利用グングン上昇

### 角田・グライダー発着場

霞目飛行場は従来、週末には民間に開放され、県航空協会加盟のグライダー愛好家が発着場として使用していた。米中枢同時テロの発生後、警備強化のため民間利用ができなくなり、同飛行場を練習場にしてきた東北大や東北学院大の学生が、週末に角田を利用するケースが増えている。

米中枢同時テロの発生以降、阿武隈川河川敷を利用した角田市のグライダー発着場の利用が増えている。テロに伴う警備強化で陸上自衛隊霞目飛行場(仙台市)が使えなくなり、学生愛好家らが角田を訪れているため。飛行場利用再開のめどは立っておらず、角田市の発着場の利用増は当然続きそうだ。



グライダーの発着場として利用が増えている阿武隈川河川敷。角田市佐倉

## 陸上自衛隊 警備強化で使えず

二十二日からの三日間には、学生や愛好家がグライダー五機、けん引用のセスナを角田に搬入。阿武隈川の河川敷改修事業で整備された約一キロの舗装路を滑走路に見立て、角田の上空を旋回した。  
県航空協会が二年前、角田市にグライダーの発着場を整備する「東北航空公園整備構想」を打ち出すなど、安定した上昇気流が期待できる角田に対する県内の航空関係者の関心は高い。今回はその利用価値が立証された格好となった。  
同協会角田支所長の斎藤岳志さん(三九)は「霞目を除けばグライダー発着場として利用できるのは角田以外にはなく、特に週末の利用頻度が高まった。市民の皆さんにも気軽に練習場を訪れてもらいたい」と話している。